

「雨っていい音がするね」

常磐会短期大学付属常磐会幼稚園（大阪府大阪市）

* 雨の音を探そう、イメージして描こう <5 歳児 >

雨で予定していた遊び（砂遊び）が出来なかった。以前から雨の日にと計画していた遊び（『雨の音を探して遊ぼう』）に変更した。保育室にある様々な容器（缶、アルミの容器、プリンカップなど）をそれぞれ持ち傘をさし外へ出る。はじめは“雨の音探し” 葉っぱやとゆ、固定遊具など様々な場所で雨の雫の下で持ってきた容器に雨を集め、友達と雨の量をくらべっこする子ども。そのうち、「いい音するな〜」「この入れ物はあんまり聞こえへん」と雨音をしっかりと聞きながら容器によって聞こえる音が違うことに気づきうれしそうに話す。「カーン、カーンてなるな」「カタン、て音がした」違う音が見つかり「もう一回聞いて見よう」と周りの子どもも耳を澄まして聞くことを楽しんで、さらにいい音がするものを探しに行く子どももいた。「銀（アルミ）のお皿はカチンカチンていい音がするな」と子どもたちにはアルミ容器の音が好感触であった。

保育室に戻り、今度は雨粒を描いてみようということになった。クレパスに白画用紙を用意した。雨の音をイメージできるようピアノで単音を鳴らしてみる。「どんなあめかな？」「ポチャン」「ピチャン」などピアノに合わせて雨粒を描きだす。さらにピアノの音を変えてみる。「今度はどんな雨かな？」低音にしたり、早く鳴らしたり・・・「うわ〜いっぱい降ってきたー」「大きい雨やな」「なんかカミナリなりそうや」「もっと早く！！もっと早く！！」「バシャバシャや」ピアノの音にあった大粒の雨や細かい雨粒など子どもの思いそれぞれの雨が出来上がった。



ときめく心

表現する心

探求する心

科学する心への気づき

- 1、6月25日
- 2、5歳児 作ったり描いたりするクラブ（ぴかぴかクラブ）
- 3、雨を集められるものを思い思いに保育室から見つけ出してくる。（缶、アルミ、プラスチック容器など）雨粒が落ちてくるテラス、遊具、葉っぱなどをみつけ雨を集めたり落ちてくる雨音を聞いたりする。
- 4、**・雨音をしっかりと聞く。雨が集まる場所を探す。容器の材質によって音の違いがあることに気づく。**
 - ・ピアノの音を通して雨粒の違い（粒の大きさ、量、雨の降り方）など自分の知っている雨の様子をイメージしながら絵に表現することが出来た。
- 5、・友達の見つけた雨粒の音を聞いたり、描けた作品を見せ合うことで、イメージや経験がいっそう鮮明になった。
 - ・葉っぱに集まった雫や雨上がりにぬれたくもの巣に輝いている雨粒に気づくなど今までに気づけなかったことも発見するきっかけとなった。

みどころ

雨を遊びに取り込んで雨を様々な感じる遊びを引き出したことで、日常の生活では気付かなかったことに興味を向けるきっかけができました。十分に興味を持って雨の戸外に出ているので、雨だれが起きる場所を見つけて雫の大きさや落ちるリズムを感じ、雨を集める容器を使って音にする楽しさを味わうことができました。集める音の違いに気づきながら探索を楽しむことで「いい音」になるような工夫も引き出されています。感じ取った様々なことをことばで伝え合い、遊びを通してイメージしたことを描画で表現することで、友達同士互いの表現にも関心が高まり、より豊かな経験や気づきにもなっています。

（事例集 Vol、2 では、7 ページ掲載されています。）